

国民健康保険宇城市民病院廃止に伴う 医療機能再編計画(案)

令和4年7月

熊本県宇城市（国民健康保険宇城市民病院）
社会医療法人黎明会

1 事業譲渡計画策定の経緯と現状

【事業譲渡の経緯】

◆経緯等 — 「宇城市民病院の在り方検討委員会」の答申—

国民健康保険宇城市民病院（以下「市民病院」という。）は、常勤医師の不足、新型コロナウイルス感染症の拡大等を要因とした患者の減少により、急速に収益が悪化。特に入院患者の減少は著しく、病床利用率は60.1%（H29.12月時点）から50%を下回る状況に落ち込んだまま回復の兆しは見え、さらに当院が抱える患者の高齢化、固定化という問題と合わせて鑑みれば、現状の医療体制を維持していくことは困難とみられた。

このため開設者である宇城市は、令和3年9月、市長の諮問機関である「宇城市民病院の在り方検討委員会」（以下「委員会」という。）を設置。市民病院の今後の経営の在り方についての検討と専門的見地からの提言を求め、委員会は審議の結果として「経営形態は民間への譲渡が最も適切」、「ただし、可能な限り同じ場所において、診療機能が維持されることを切望する」と答申した。

1 事業譲渡計画策定の経緯と現状

【事業譲渡の経緯】

◆経緯等 ー譲渡の方針決定から譲渡先の決定までー

2月15日、市は市民病院を民間に譲渡する方針を決定。民間への事業譲渡を主軸に譲渡先となる医療機関の検討に入った。

しかし、宇城地域医療圏では急性期病床が過剰状態にあるため、市民病院の許可病床は皆減し、外来診療機能のみを譲渡する方針に転換。

これにより、譲渡先には一層の安定した病院経営が求められることから、地域の中心的な医療機関である公的医療機関を譲渡候補先として協議を進めた結果、社会医療法人黎明会（以下「黎明会」という。）に事業譲渡するものである。



1 事業譲渡計画策定の経緯と現状

【自施設の現状】

届出入院基本料	地域一般入院基本料 2	
許可病床数	45床（一般病床）	
職員数	39名	医師（常勤1、非常勤7）、看護師20、 コメディカルスタッフ6、その他5
施設の特徴	急性期医療を中心に、地域の終末期医療や 小規模事業所等の職場検診を積極的に受入れ	
他機関との連携	熊本大学病院等と癌治療連携	
主な機能	救急医療告示病院（～R4. 9. 13）	

1 事業譲渡計画策定の経緯と現状

【譲渡先法人の概要】

○名 称 社会医療法人黎明会

○主たる事務所 宇城市松橋町久具691番地

○沿革

昭和59年 7月 1日	宇賀岳病院開設
昭和59年11月10日	救急医療機関指定
昭和60年10月 5日	医療法人社団黎明会設立
平成11年 3月 3日	災害拠点病院指定
平成14年 3月29日	第二種感染症指定医療機関指定
平成17年 3月28日	特定医療法人承認
平成23年 5月 1日	社会医療法人認定
平成24年 9月29日	現在地へ移転・開院、宇賀岳病院から宇城総合病院へ名称変更
平成25年 4月 1日	ともち未来病院の事業譲渡を受ける
平成27年 7月30日	宇城総合病院：地域医療支援病院承認
平成28年 4月 1日	ともち未来病院から美里リハビリテーション病院へ名称変更
平成30年10月 5日	宇城総合病院：熊本県在宅医療サポートセンター指定
平成31年 3月27日	宇城総合病院：熊本県地域医療拠点病院指定
平成31年 3月28日	美里リハビリテーション病院を美里リハビリテーション病院介護医療院（83床）と美里リハビリテーションクリニックへ変更



1 事業譲渡計画策定の経緯と現状

○開設する病院、診療所及び介護医療院の概要

施設名称	宇城総合病院	美里リハビリテーション病院 介護医療院	美里リハビリテーションクリニック
所在地	宇城市松橋町久具	下益城郡美里町洞岳	下益城郡美里町洞岳
許可病床数 (ベッド数)	204床 (一般病床200床、感染症病床4床)	(83床)	—
診療科目	内科、循環器内科、糖尿病内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、脳神経内科、人工透析内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、整形外科、リウマチ科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科		内科、循環器内科、呼吸器内科、外科、リハビリテーション科、整形外科、歯科
附帯業務		居宅介護支援事業 地域支援事業 ・介護予防事業 ・介護予防ケアマネジメント事業	
職員数	400名	68名	21名

2 今後の方針

【医療連携の強化と安定した病院経営】

当院と黎明会が運営する宇城総合病院（以下「病院」という。）は、車で約5分の近接した位置にある。また地域の中心的な公立・公的医療機関として、互いに早い時期から救急医療等に対応できる医療活動を続けてきたことにより、診療科目の類似性は高くなっている。

このことは、当院が「再検証*」の対象となった一因であるが、今回、無床診療所になることで役割は変わってくる。病院との連携をさらに緊密に強化することで、同地域内において、日頃の診療と入院や専門的な治療との機能分担が可能になり、患者や患者家族の負担軽減にも繋がるものとなる。

さらに、黎明会は平成25年にともち未来病院の事業譲渡を受け、医療療養病床から介護医療院に転換し、地域医療の継続、安定を図った実績を持つ。民営化による時代の先見性は、安定した病院経営に欠かせないものであり、今後の地域の期待に応え得るものである。

* 「公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証等について」 (R2. 1. 17厚生労働省医政局長通知)

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

昭和28年に診療所から始まった当院は、「周辺地域の『かかりつけ医』として、地域医療の実現と市民の健康増進を図るため関係機関との連携を推進し、地域に密着した医療機関として、現状の医療体制を維持していくことで、地域医療を支える」ことを地域において今後担うべき役割として掲げた。（H30.3.7第3回宇城地域医療医療構想調整会議）

今回、黎明会に無床診療所として事業を譲渡することで、当院を『かかりつけ医』とする地域住民がこれまでと変わらない医療サービスを受けられる環境を整える。また黎明会側も、公的役割を担う社会医療法人の使命として、地域住民がこれまでと同じ場所で継続して医療を受けることができるよう、事業譲渡に向けた協議を進めたいとの考えである。

宇城市としても、従来、市民病院が担ってきた機能や役割が維持され、地域の医療機関や介護施設等との連携がなされているか、適宜確認を行っていくことで地域医療を支えていく方針である。

3 具体的な計画

今後提供する医療機能に関する事項

	現時点 (2022年6月時点)	2025年
許可病床	急性期 45 床	0 床
診療科目	外科、内科、循環器科、消化器科、肛門科、放射線科、リハビリテーション科	外科、内科、循環器科、消化器科、肛門科、放射線科、リハビリテーション科

4 事業譲渡までのスケジュール

R4. 2. 15	宇城市長が、事業譲渡の方針を公表
R4. 6. 14	宇城市議会において、譲渡先との協議開始を報告
R4. 8	・ 宇城地域医療構想調整会議
R4. 9	・ 宇城市議会で廃止条例提案 ・ 外来診療機能譲渡に関する基本協定書締結
R5. 1	・ 熊本県医療審議会（病床皆減） ・ 単独支援給付金の支給申請
R5. 3	・ 宇城市民病院の廃止
R5. 4	・ 社会医療法人黎明会により開業